

徳 高 小 史

本校の淵源は明治13年(1880年)6月に山口県五中学の一つとして、徳山村下御弓町(現在の川端町)にあった金剛山教学院という寺を借り受けて開校した徳山中学校と、明治45年(1912年)4月に、県下7番目の公立高等女学校として徳山村中丁(現在の県総合庁舎あたり)に開校した都濃郡立都濃高等女学校にさかのぼることができる。法令により両者は幾度か名称を変え、脈々と多くの人材を世に送り出してきた。昭和23年(1948年)4月には、新法律下で前者は山口県立徳山高等学校(1949年から1年間徳山西高等学校)に、後者は山口県立徳山女子高等学校(1949年から1年間徳山東高等学校)になった。昭和25年4月に両校は統合され、山口県立徳山高等学校になった。この時の生徒数は、全日制普通科1,305名、定時制普通科109名で県下でも有数の大規模校であった。翌26年に定時制家庭科を(昭和33年廃止)、28年には全日制家庭科(昭和39年廃止)が設置された。昭和46年には全日制理数科が設置され昭和55年6月には開校100周年の記念式典がもたれた。また昭和62年には甲子園夏の大会に出場した。

徳山空襲で全焼した校舎の再建以来、校舎・体育館は再三改築され現在に至っている。学級数の減少と学級定員の改定に伴い生徒数は漸減している。平成20年度からは徳山高等学校鹿野分校が開校し、最多時は2,000名に手が届く寸前であった生徒数は現在、本校(全・定)、鹿野分校併せて約1,000名である。

本年度の入学者は、3年後には徳高63期の卒業生となる。

徳 高 の 現 在 一 本 校 の 主 な 現 状

(1) 学級数・生徒数(平成20年度予定)

全日制普通科	各学年7学級	計21学級	800名定員	在籍800名見込
理数科	各学年1学級	計3学級	120名定員	在籍120名見込
定時制普通科	各学年1学級	計4学級	160名定員	在籍70名程度見込

(2) 2学期制・隔限60分授業

平成12年度から導入している。1・3・5時限が50分、2・4・6時限が60分の授業で、1日30分増、1週間150分増(3単位相当)で、学校5日制での土曜休業による授業時間減を補っている。60分授業は、実験・実習・演習等や授業のま